

【資料4-2】

経営戦略原稿案への指摘・修正箇所(第6回審議会後)

*資料ページ数は当初作成時点のものです。修正後の資料ではズレが生じる場合があります。

資料	ページ	章	項目	審議会での指摘等	修正・対応概要
1 第6回資料4-1	1	5	冒頭	第5章のリード文を、もう少し具体的に示した方が理解しやすい。	章全体の概要についての記載を追加
2 第6回資料4-1	4	5	1	GESUIDO通信について、新聞折込・施設配布以外の方法での周知をしているか。	デジタルツールを活用した周知についての記載を追加
3 第6回資料4-1	4	5	1	処理場見学の写真が更新されていない。	写真を更新
4 第6回資料4-1	7、8	5	2	処理場や管路について、耐用年数を超えていても、調査により優先度をつけて対策を行い、その他は後送りすると示した方が良い。	優先的取組みについての記載を追加
5 第6回資料4-1	6、13	5	一	ストックマネジメント計画による「計画的な改築更新」(P.6)と「大規模災害に備えた取組み」(P.13)の有機的連携について、戦略検討の余地があるのではないか。	「大規模災害に備えた取組み」の項目に、「耐震化対策と老朽化対策を効率的に進めること」についての記載を追加
6 第6回資料4-1	18	6	一	表の字が小さくて読みづらい。	最終稿作成時に、掲載方法を検討します。
7 第6回資料4-1	24、25	6	1	環境やエネルギーに関して、2035年度までを意識し、検討することを記載したほうが良い。	温室効果ガス削減のため、24ページのとおり今後も取組みを進めます。
8 第6回資料4-1	26	6	2	浸水対策、豪雨への対応について、最近の傾向を踏まえた記載を入れた方が良い。	・近年の浸水リスクを想定した計画についての記載を追加 ・図6-8に「調節池の推進」を追加
9 第6回資料4-1	21～51	6	一	(投資・財政計画の決定に伴う更新)	投資・財政計画の決定に伴い、以下の図表を差し替えました。 P21:図6-1 P24:図6-7 P27:表6-4、図6-9 P33:表6-6 P34:表6-7 P37:表6-9 P38:表6-11、図6-22 P39:図6-23、24 P48:表6-13、14、図6-34 P49:表6-15 P50:表6-16、17、18、図6-35 P51:図6-36
10 第6回資料4-1	全般	一	一	用語解説を付ける際の＊マークを統一すること。 また、同じ単語が2回目でもマークを付けてはどうか。	最終稿作成時に、用語解説の付け方を整理します。

第5章 効率化・経営健全化の取組み

公営企業として持続的かつ安定的に下水道事業を実施し経営していくため、事業の現状や課題を踏まえて、中長期的な視野に基づいた効率化・経営健全化の取組みを進めます。

下水道事業を取り巻く環境の変化に対応し持続的かつ安定的に事業を実施するためには、経営基盤の強化が重要であることから、業務の実情に即した「人材育成」や下水道資産における未利用地などの「資産の有効活用」、「民間の技術力、経験の活用」などに取り組みます。

また、将来を見据えた効率的・効果的な投資として、老朽化対策を目的とした町田市ストックマネジメント計画に基づく「計画的な改築更新」や、危機管理体制の強化として、「大規模災害に備えた地震対策」などに取り組みます。

下水道事業に対する理解や信頼感を高めるため「経営状況や事業計画の見える化」や「広報活動」などにも引き続き取り組みます。

② 広報活動の取組み

市民にとって普段の生活では意識することの少ない、下水道の適正利用や下水道使用料などへの理解を深めていただくため、広報活動に努めています。

「GESUIDO 通信」を毎年度発行し、新聞折込みや施設で配布しています。配布のほかに町田市ホームページや電子配信アプリなどのデジタルツールも活用し周知しています。また、「下水道の日(9月10日)」にちなんだ市庁舎でのPR活動、市民が集う「ECO to フェスタ」や「町田さくらまつり」などのイベントに出展し、下水道の役割について、展示やクイズ出題などによる分かりやすい説明を行っています。

また、豪雨が予想される際には、防災メールを送信するなど、他部署と連携を図り、広報活動を行っています。



図 5-3 マンホールカード(左)、カラーマンホール蓋(中)、「GESUIDO 通信」(右)

また、2箇所の下水処理場では、気軽に施設を見学していただき、水の循環に下水道が担う役割を知っていただけるよう、環境教育・環境啓発活動にも努めています。



図 5-4 下水処理についての座学(左)、施設見学の様子(右)

町田市ストックマネジメント計画(処理場施設)

町田市ストックマネジメント計画(処理場施設)は、処理場施設全体を一体的に把握し、点検・調査・改築の実施時期を定め、処理場施設全体の持続的な機能確保及びライフサイクルコストの低減を図る目的で策定したものです。

当市の処理場施設全資産(約 3,000 点)を対象に、「資料の収集・整理」を行い、「リスク評価及び調査優先順位」の検討などを行った上で、優先順位の高い資産から詳細調査を行います。詳細調査結果をもとに評価・分析を行い、「改築(全部)」「改築(一部)」「修繕・維持」に振り分けを行います。この詳細調査は、新しい設備から耐用年数を超過した設備に至るまで幅広く実施し、設備の健全度を詳細に把握することで、適切な時期に修繕または改築を行い、効率的で効果的な処理場施設の維持管理につなげています。

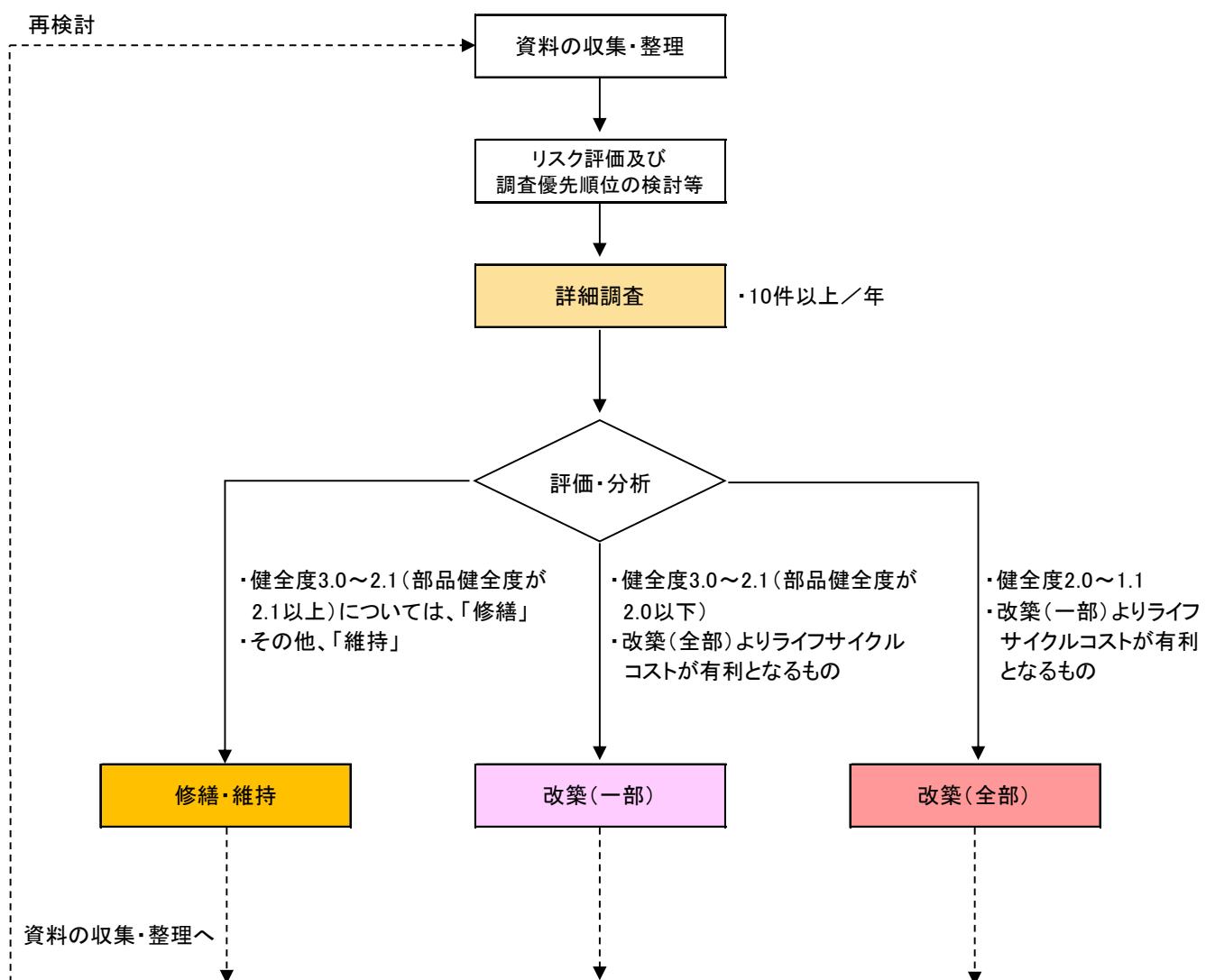


図 5-7 処理場施設のストックマネジメント計画フロー

町田市ストックマネジメント計画(管路施設*)

町田市ストックマネジメント計画(管路施設)は、維持管理コストの削減を図り、管路施設の管理を最適化することを目的として策定されました。

下水道管路施設全体の約 1,675km(汚水約 1,325km、雨水約 350km)を対象に、「資料の収集・整理」を行い、「リスク評価及び調査優先順位」の検討などを行った上で、優先順位の高いエリアから簡易調査を行います。

簡易調査結果をもとに評価・分析を行い、「詳細調査」に位置付けられた施設については、
 詳細調査結果をもとに評価・分析を行い、「修繕・改築」または「経年観察」に振り分けます。
 このように、簡易調査と詳細調査に分けることで調査を効率化し、管路施設が耐用年数に
 達していたとしても、調査によって状態を把握し、適切な時期に修繕・改築を行うことで、効
 果的な維持管理を実現しています。

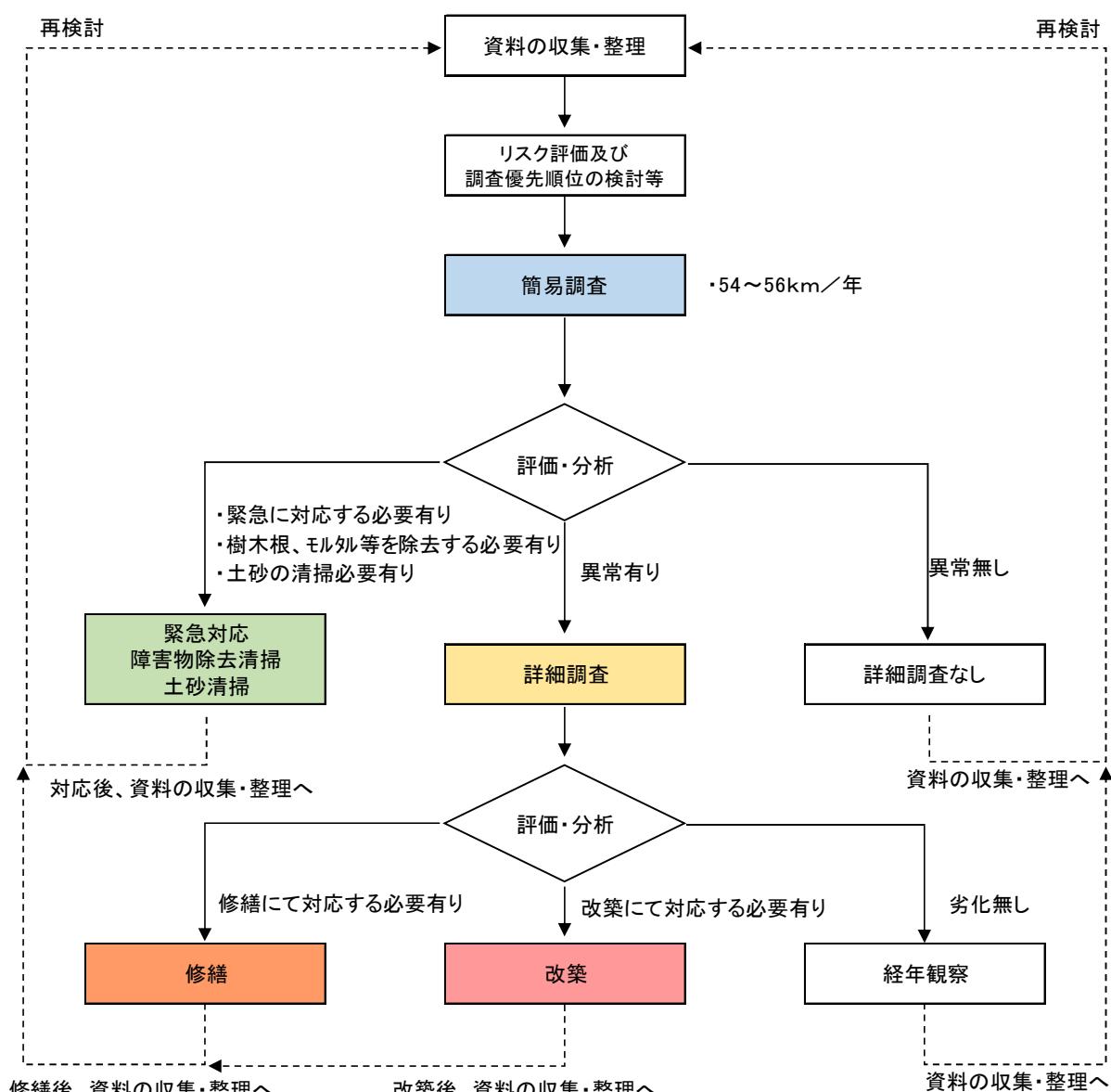


図 5-8 管路施設のストックマネジメント計画フロー

3. 危機管理体制の強化

(1) 大規模災害に備えた取組み

下水道施設は、日常生活における重要なライフラインのひとつです。大規模地震の発生によって、下水処理場の施設機能停止、下水管の破損による道路陥没、液状化によるマンホールの隆起、排水不能により汚水が地表面にあふれるなど市民生活に甚大な影響を及ぼすことのないよう引き続き地震対策の推進に取り組んでいきます。

また、工事にあたっては「町田市ストックマネジメント計画」の調査結果に基づく改築更新計画と連動し、耐震化対策と老朽化対策をより迅速かつ効率的に両立できるように努めています。

«下水処理場»

下水処理場では、建設年度の古い成瀬クリーンセンターから耐震化*に取り組んでいます。2025年度末で成瀬クリーンセンターでは対象施設の総延べ床面積 81.5%の耐震化が完了し、鶴見川クリーンセンターでは対象施設の総延べ床面積 21.9%の耐震化が完了しています。

また、鶴見川クリーンセンターと鶴川ポンプ場では、老朽化した非常用発電設備の更新を予定しています。

«管渠»

管渠の耐震化は、町田市地域防災計画(2023年度)に基づき、市域で想定される首都直下地震(多摩東部直下地震)により液状化発生が予測される地域の污水管と雨水管の工事を行い、2029年度末までに更新することを予定しています。

(2) 危機管理などの体制強化

大規模な災害等で下水道施設が被害を受けた場合でも、職員が下水道機能を維持または早期回復できるようにするため、「町田市下水道事業継続計画*(下水道 BCP)」を、地震編と水害編に分けて策定、運用しています。

また、大規模な災害だけでなく、新型コロナウイルスをはじめとした感染症などが拡大した場合にも、事業を継続し安定した下水道サービスを提供するため、インフルエンザ等編についても策定、運用しています。今後、火山の大規模噴火での降灰による被害への対応についても想定し、下水道 BCP の見直しを進めています。

町田市下水道ビジョンで掲げた3つの基本方針の実現に向けて事業を実施します。

1. 環境に配慮した施設整備・より良い環境づくりの推進

(1) 住環境の改善

① 公共用水域の水質改善

1) 污水管整備

当市では1964年度から下水道事業に着手し、住環境の改善、河川の水質向上を目指して事業を進め、2024年度末には下水道人口普及率が99.1%に達しました。

下水道事業計画に基づき、市街化区域における都市計画道路未整備箇所、私道などへの汚水管整備を進めるとともに、市街化調整区域においては地域性を踏まえた汚水管整備を進めることで、下水道人口普及率100%を目指します。



図 6-1 污水管整備延長と年度別事業費

2) 污水管接続普及啓発・合併処理浄化槽設置の促進

汚水管整備済区域における接続普及啓発を実施するとともに、下水道事業計画区域外においては合併処理浄化槽設置促進を図ることで、水洗化率向上を目指します。

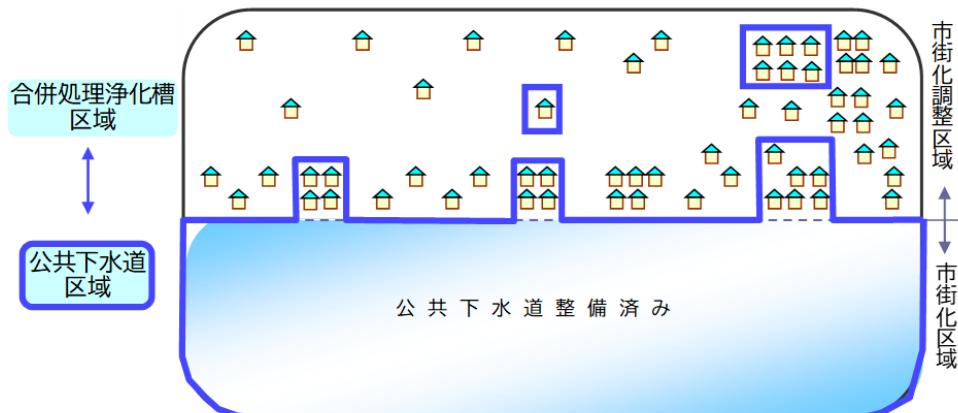


図 6-2 公共下水道と合併浄化槽との区分けイメージ図

(3) 地球温暖化対策と資源の循環利用

① 温室効果ガスの削減

1) 温室効果ガス排出量の削減

下水道事業においては、汚水処理や汚泥*の焼却過程で多くの温室効果ガスを排出しているため、その量を把握し、適切な排出抑制対策を講じることにより、地球温暖化対策の推進に寄与することが求められています。

当市では、2022年1月に環境先進都市「ゼロカーボンシティまちだ」を宣言し、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロとするカーボンニュートラルを目指し、2030年度における温室効果ガス削減目標を、2013年度比で46%減としています。

この目標を達成するため、下水処理場では、汚泥の高温焼却や次世代型の焼却炉の導入、また再生可能エネルギー発電(風力)や町田市バイオエネルギーセンターでのごみ焼却発電(自己託送)による電力を導入し、エネルギー使用の合理化を積極的に図るとともに、低炭素電力を使用し、温室効果ガス排出量のさらなる削減に努めています。

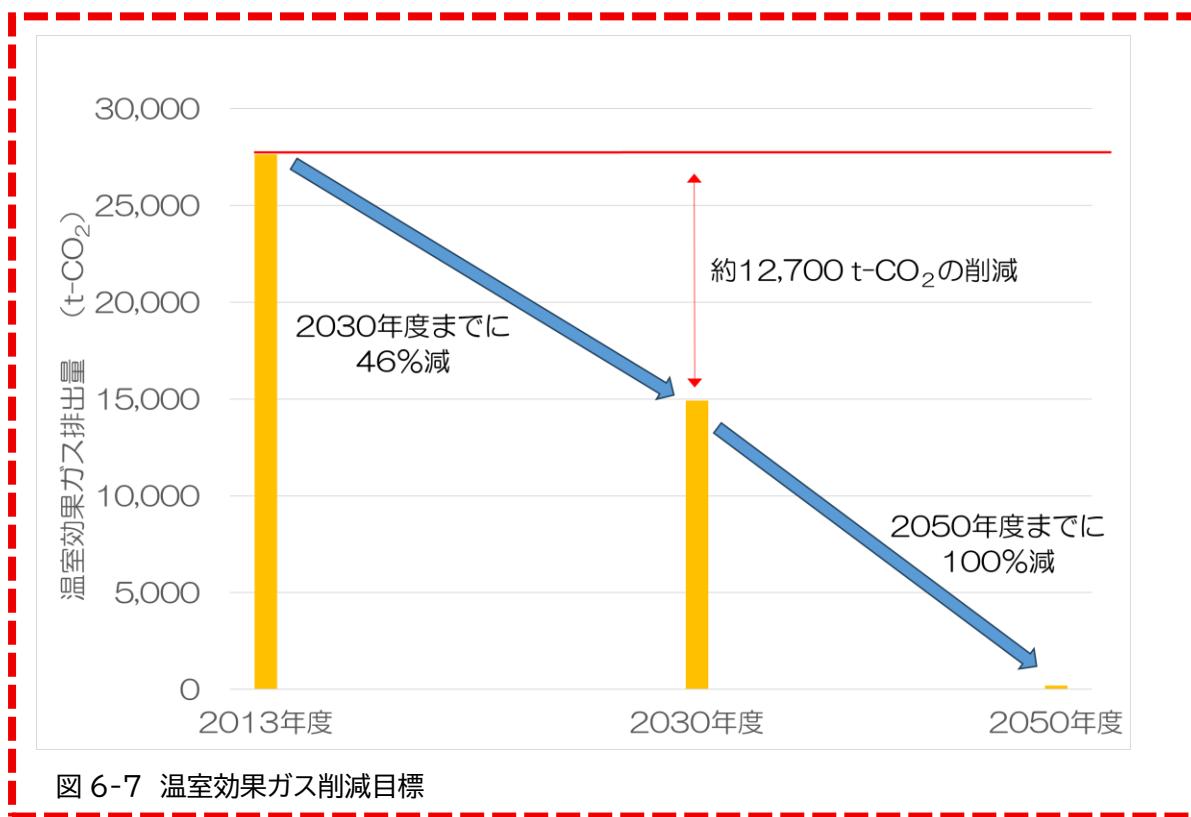


図 6-7 温室効果ガス削減目標

2. 災害に強いまちづくりの推進・安心な暮らしの構築

(1) 浸水対策の推進

近年の気候変動の影響で激甚化・頻発化する豪雨による浸水被害のリスクが高まっています。これに対し、下水道による効果的な浸水対策を進めるために、2025年度から「町田市雨水管理総合計画」に基づく取組みを開始しました。この計画では、過去の浸水履歴や浸水シミュレーションを活用して、地域ごとの浸水リスクを評価しています。その結果を基に、浸水被害の軽減の取組みとして、雨水管整備などのハード対策*と豪雨前のパトロールなどのソフト対策*を総合的に進めています。なお、集中豪雨などの計画雨量を超える大雨に備える雨水管等の整備は困難であるため、各個別の住宅への浸透枠設置や調節池整備の推進、既存調整池の機能確保に努めています。



図 6-8 浸水対策の概要(イメージ)

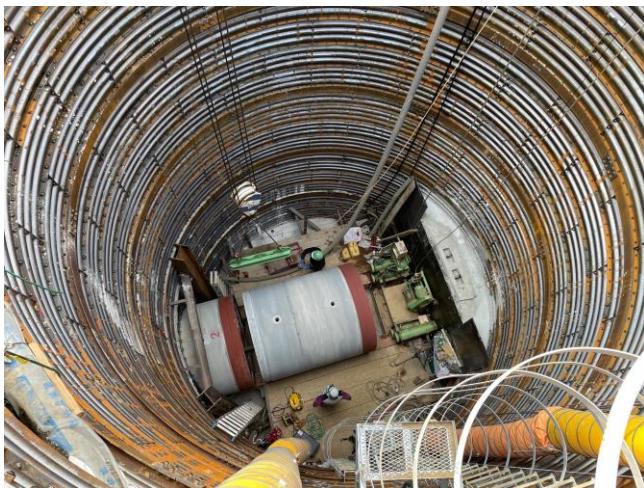
1) 浸水対策

1) 浸水被害軽減対策

浸水履歴の変動などによる対策箇所の見直しを必要に応じて検討し、実状に即した雨水管整備工事等の浸水対策を実施します。

表 6-4 浸水対策箇所数と事業費

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	合計
完了箇所 (箇所)	-	2	-	1	1	-	-	-	1	-	5
事業費 (百万円)	559	503	342	478	451	450	442	753	791	537	5,306



(大口径推進管:内径1800mm)

図 6-9 浸水対策として行う雨水管整備工事

1) 汚水管の耐震化

重要な幹線等*のうち、鶴川ポンプ場から鶴見川クリーンセンターへの圧送管や液状化発生が予測される地域に布設された汚水管について、耐震化工事を行い、2029年度までに完了します。

表 6-6 汚水管の耐震化工事の事業費

<汚水管>

年度	2026	2027	2028	2029	合計
事業費 (百万円)	51	44	501	488	1,084
耐震化率 (%)	99.1	99.1	99.6	100	-

耐震化工法の紹介

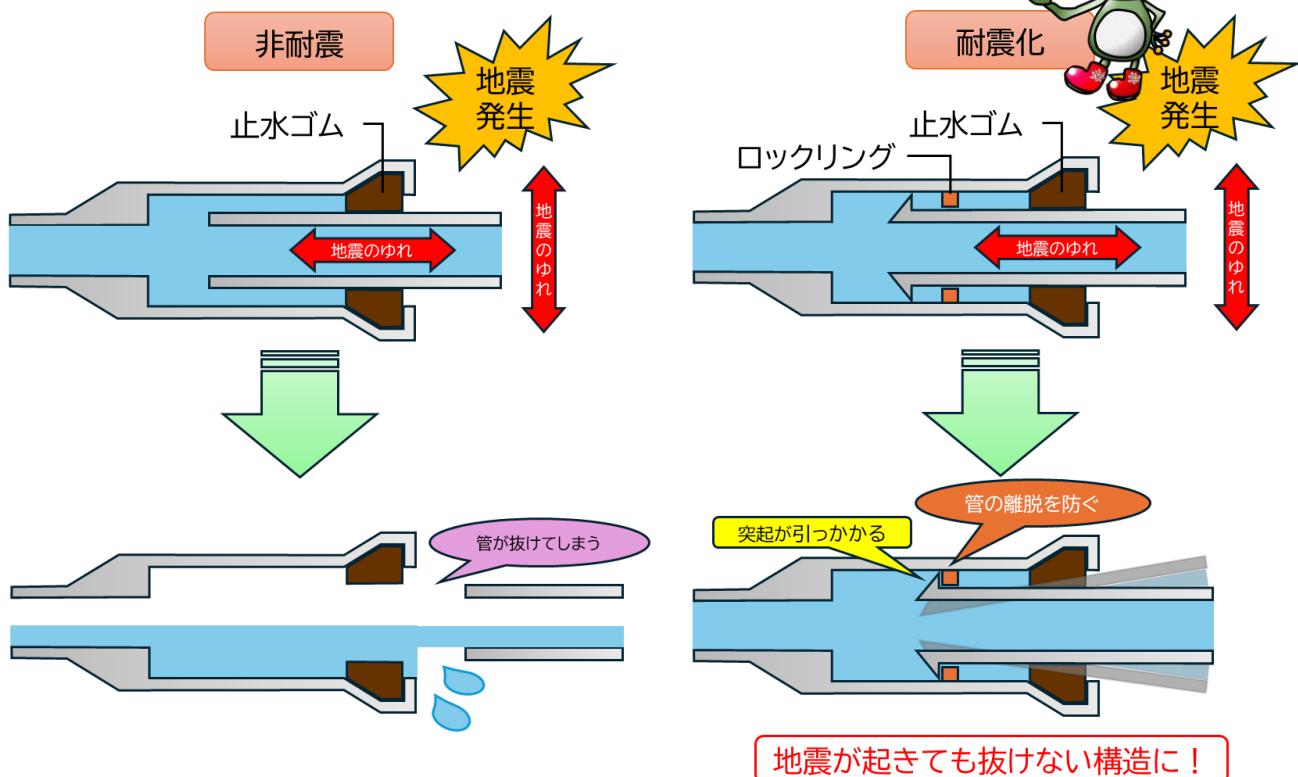


図 6-17 圧送管(圧力をかけて汚水を送る管)の地震対策例

2) 雨水マンホールの耐震化

重要な幹線等*のうち、液状化発生が予測される地域に布設された雨水マンホールについて、耐震化工事を行い、2029年度までに完了します。

表 6-7 雨水管の耐震化工事の事業費と耐震化率

<雨水マンホール>

年度	2026	2027	2028	2029	合計
事業費 (百万円)	19	194	202	198	613
耐震化率 (%)	97.6	98.4	99.2	100	-



図 6-18 液状化によるマンホール浮上状況

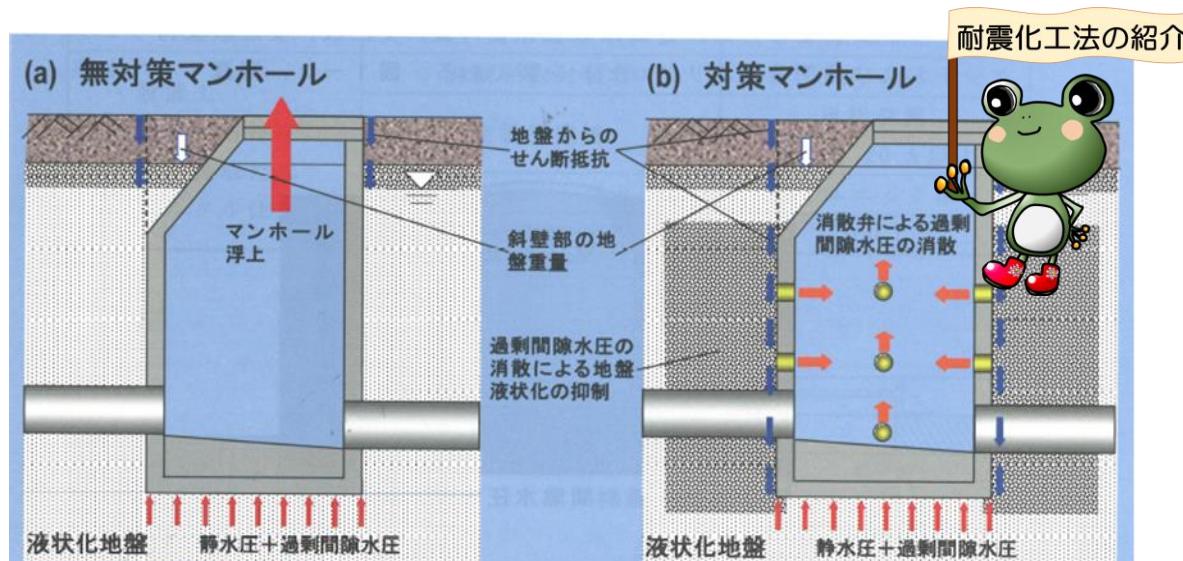


図 6-19 マンホール液状化対策例(1)

4) 鶴見川クリーンセンターの耐震化

現在の鶴見川クリーンセンターの耐震化対象施設の総延べ床面積に対する耐震化率は21.9%です。2037年度を目途に耐震化が完了する予定です。地震災害時の減災対策として最終沈殿池が被災して使用が不可能になった場合でも、沈殿、消毒など、最低限の処理場運用ができるよう整備をおこなっています。

また、老朽化した非常用発電設備の更新工事を行います。地震等による停電時も一定程度の時間、設備を運用できるように万全な備えを進めています。

表6-9 鶴見川クリーンセンターの耐震化工事の事業費

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	合計
事業費 (百万円)	108	203	533	774	0	561	704	86	87	202	3,258
耐震化率 (%)	21.9	21.9	21.9	44.6	44.6	44.6	79.4	79.4	79.4	79.4	-

5) 鶴川ポンプ場の耐震化

現在の鶴川ポンプ場は耐震化工事に未着手です。2034年度を目途に耐震化が完了する予定です。

また、老朽化した非常用発電設備の更新工事を行います。地震等による停電時も一定程度の時間、設備を運用できるように万全な備えを進めています。

表6-10 鶴川ポンプ場の耐震化工事の事業費

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	合計
事業費 (百万円)	24	227	0	0	0	0	0	120	200	0	571
耐震化率 (%)	0	0	0	0	0	0	0	0	100	100	-

表6-11 下水処理場・鶴川ポンプ場の主な地震対策工事

年度		2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
町田市下水道総合地震対策計画／上下水道耐震化計画		町田市下水道総合地震対策計画(第Ⅳ期) 上下水道耐震化計画									
成瀬クリーンセンター	No.	耐震化率 (%)	81.5	81.5	81.5	81.5	81.5	81.5	81.5	94.0	94.0
		水処理棟1系	耐震工事 (最初沈殿池)			耐震工事 (最終沈殿池他)			耐震工事 (最終沈殿池他)		
		水処理棟2系			耐震工事 (最初沈殿池)				耐震工事 (最終沈殿池他)		
		水処理棟3系				耐震工事 (最終沈殿池)					
鶴見川クリーンセンター	水処理棟1～3系 最終沈殿池他		簡易放流施設設置工事	耐震診断 (最終沈殿池他)	実施設計 (最終沈殿池他)						
	No.	耐震化率 (%)	21.9	21.9	21.9	44.6	44.6	44.6	79.4	79.4	79.4
	耐鶴-1	沈砂池管理棟	耐震診断	実施設計				耐震工事			
	耐鶴-2	水処理棟			耐震診断	実施設計				耐震工事	
	耐鶴-3	汚泥処理棟	耐震診断	実施設計	耐震工事						
	耐鶴-4	焼却炉棟			耐震工事						
	耐鶴-5	塩素混和池			耐震診断 (放流渠)				耐震工事		
鶴川ポンプ場	No.	耐震化率 (%)	0	0	0	0	0	0	0	100	100
	耐ボ-1	ポンプ棟	耐震診断	実施設計					耐震工事		
	耐ボ-2	非常用発電設備		更新工事							

*耐震化率 (%) = (耐震化済みの延べ床面積) / (耐震化対象建物の総延べ床面積) × 100

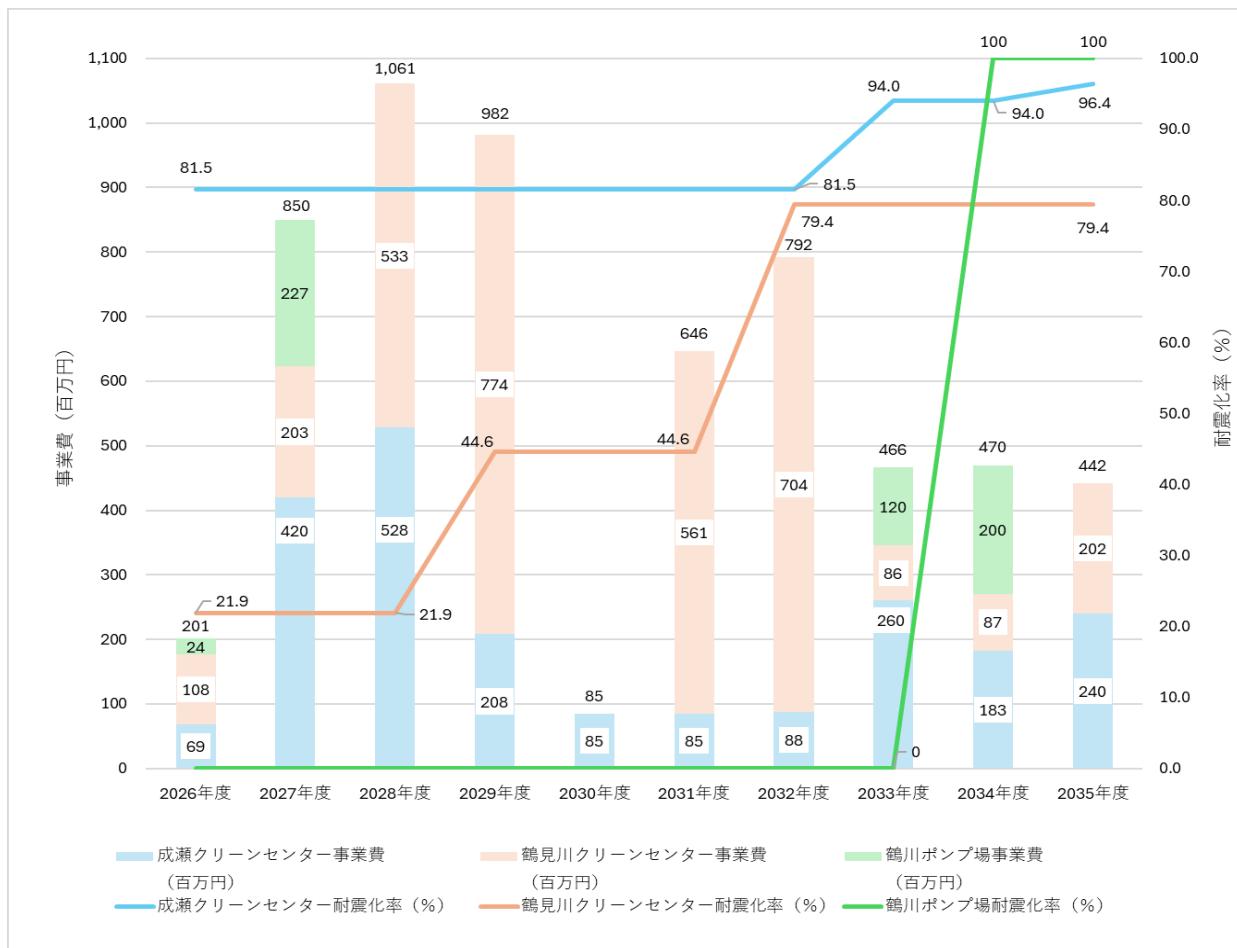


図6-22 成瀬クリーンセンター・鶴見川クリーンセンター・鶴川ポンプ場の耐震化事業費と耐震化率

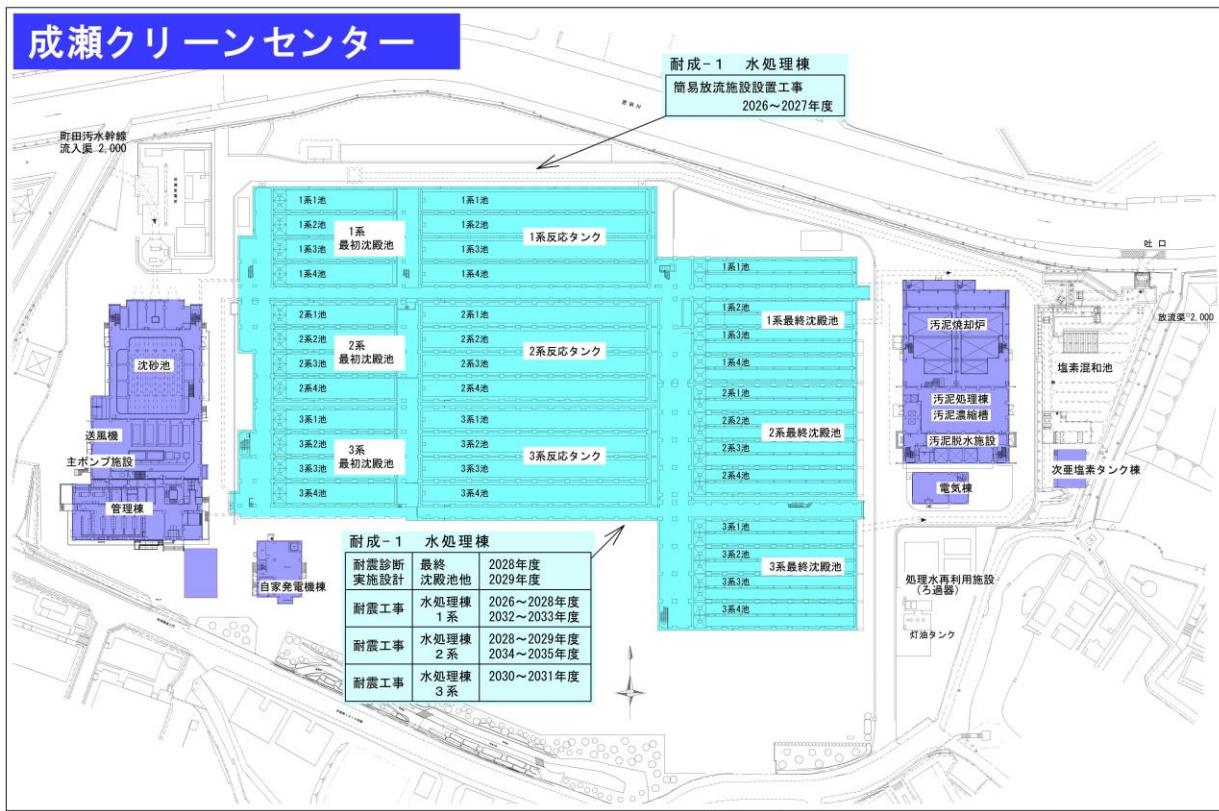


図6-23 成瀬クリーンセンターの主な地震対策工事実施箇所

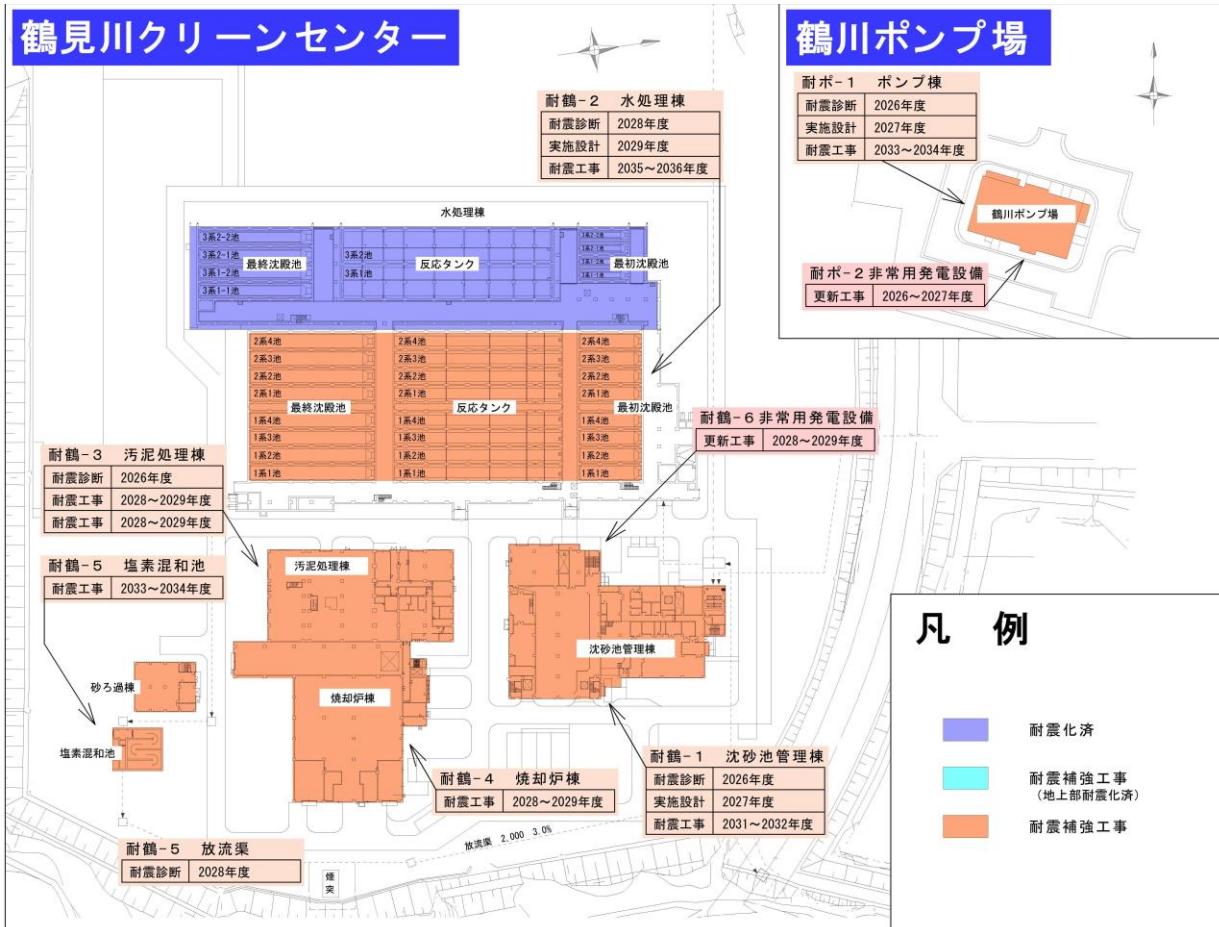


図6-24 鶴見川クリーンセンター・鶴川ポンプ場の主な地震対策工事実施箇所

表6-13 汚水管の改築更新事業費と工事延長

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	合計
事業費 (百万)	47	37	565	560	290	45	31	462	462	483	2982
汚水管	詳細調査 (km)	12.7	0.0	0.0	0.0	10.9	10.9	0.0	0.0	11.3	45.8
	実施設計 (km)	0.0	3.2	3.2	1.4	0.0	0.0	2.4	2.4	0.6	15.6
	改築工事 (km)	0.0	0.0	3.2	3.2	1.4	0.0	0.0	2.4	2.4	15.0

汚水管については2025年度まで9.8km改築工事完了。

表6-14 雨水管の改築更新事業費と工事延長

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	合計
事業費 (百万)	1025	717	0	23	608	1035	955	0	0	61	4424
雨水管	詳細調査 (km)	22.8	0.0	0.0	0.0	9.3	9.3	0.0	0.0	9.7	51.1
	実施設計 (km)	2.6	0.0	0.0	1.8	3.2	3.2	0.0	0.0	1.8	12.6
	改築工事 (km)	2.6	2.6	0.0	0.0	1.8	3.2	3.2	0.0	0.0	13.4

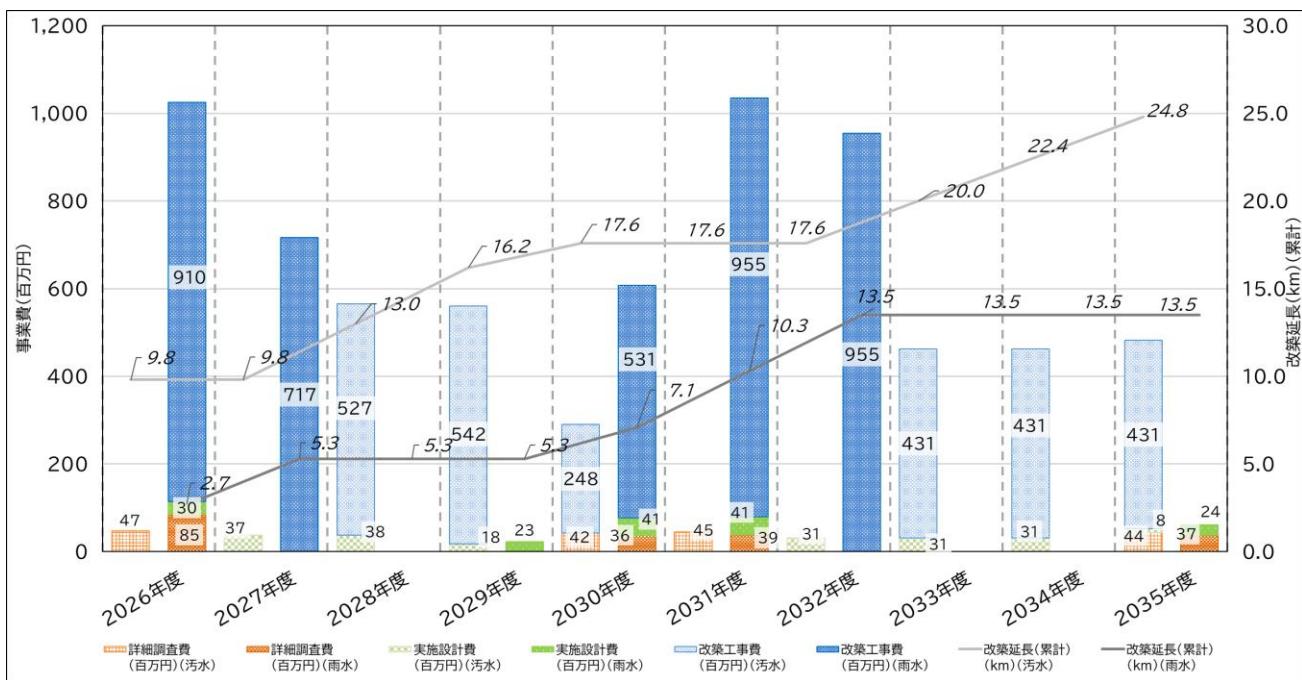


図6-34 汚水管・雨水管の改築更新事業費と工事延長

2) 下水処理場・ポンプ場の改築更新

「町田市ストックマネジメント計画」(P.〇〇参照)に基づき、各施設(成瀬クリーンセンター・鶴見川クリーンセンター・鶴川ポンプ場)において下記のとおり改築更新を実施します。

表6-15 下水処理場・鶴川ポンプ場の主な設備改築更新工事

年度			2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
町田市ストックマネジメント計画			第Ⅱ期	第Ⅲ期				第Ⅳ期				
			X					X				
成瀬 クリーンセン ター	改成-1	沈砂池設備	改築工事				実施設計	改築工事				
	改成-2	揚水設備										
	改成-3	水処理設備	実施設計	改築工事			基本実施設計	改築工事		改築工事		
	改成-4	汚泥処理設備	改築工事		実施設計		改築工事	改築工事				
	改成-5	汚泥焼却設備	改築工事				改築工事					基本設計
	改成-6	電気設備					基本実施設計	改築工事				
鶴見川 クリーンセン ター	改鶴-1	沈砂池設備				改築工事						
	改鶴-2	揚水設備	改築工事									
	改鶴-3	水処理設備								実施設計	改築工事	
	改鶴-4	汚泥処理設備				実施設計	改築工事					
	改鶴-5	汚泥焼却設備	実施設計				改築工事					
	改鶴-6	電気設備		実施設計	改築工事							
鶴川ポンプ場	改ボ-1	電気設備	改築工事									

表 6-16 成瀬クリーンセンターの改築更新事業費

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	合計
事業費 (百万円)	528	1,208	1,642	280	1,022	491	1,009	1,297	997	1,237	9,711

表 6-17 鶴見川クリーンセンターの改築更新事業費

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	合計
事業費 (百万円)	163	432	228	616	885	914	597	103	126	362	4,426

表 6-18 鶴川ポンプ場の改築更新事業費

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	合計
事業費 (百万円)	54	248	0	0	0	0	0	13	23	0	338

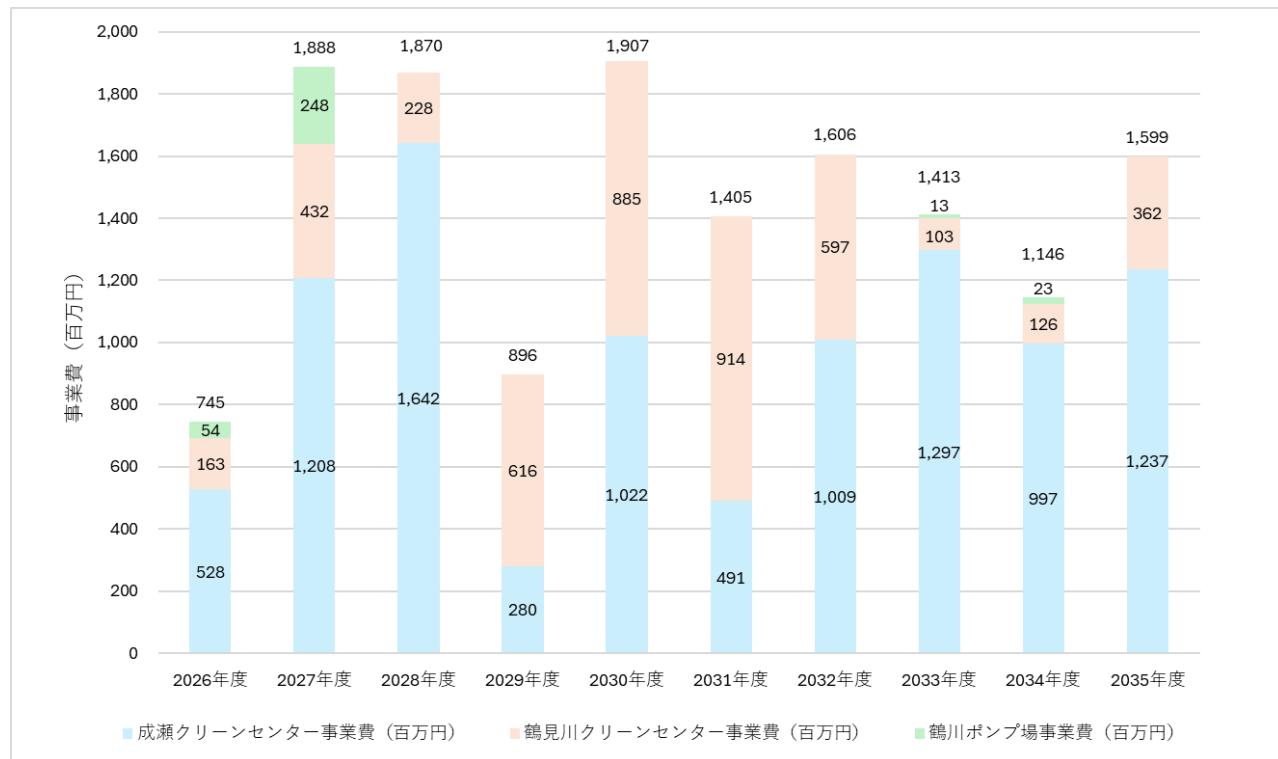
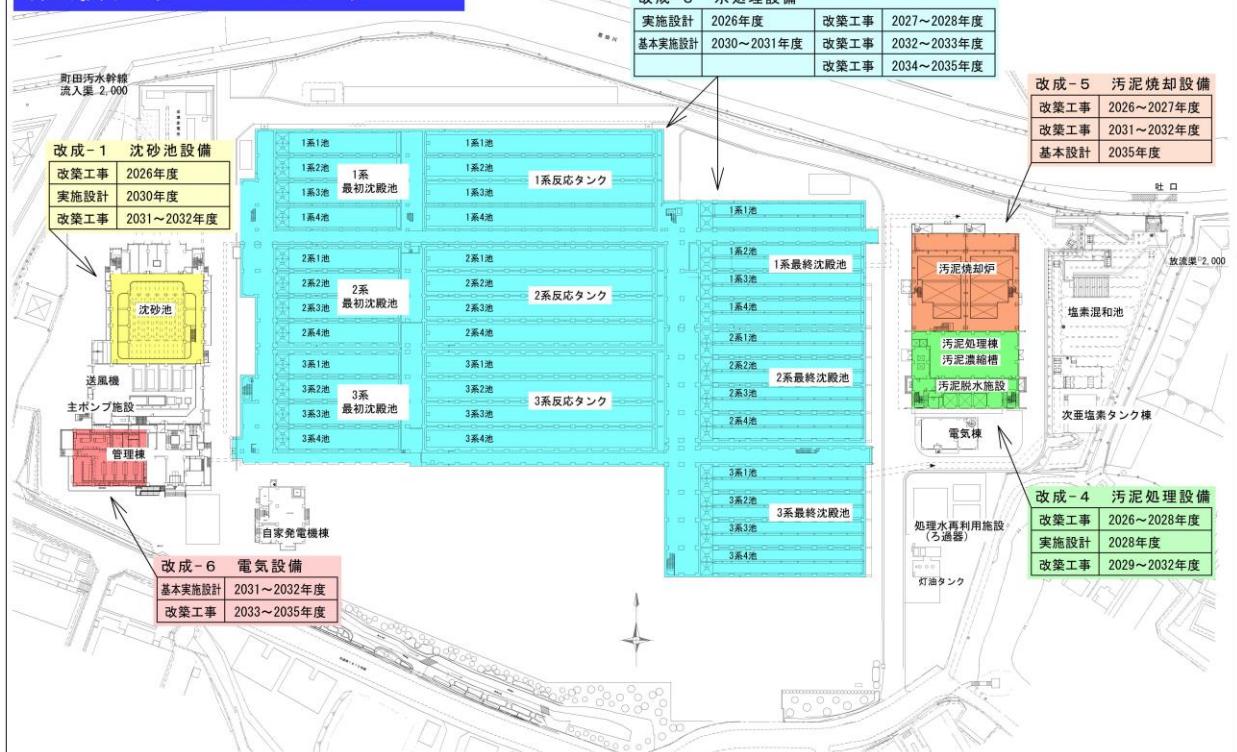
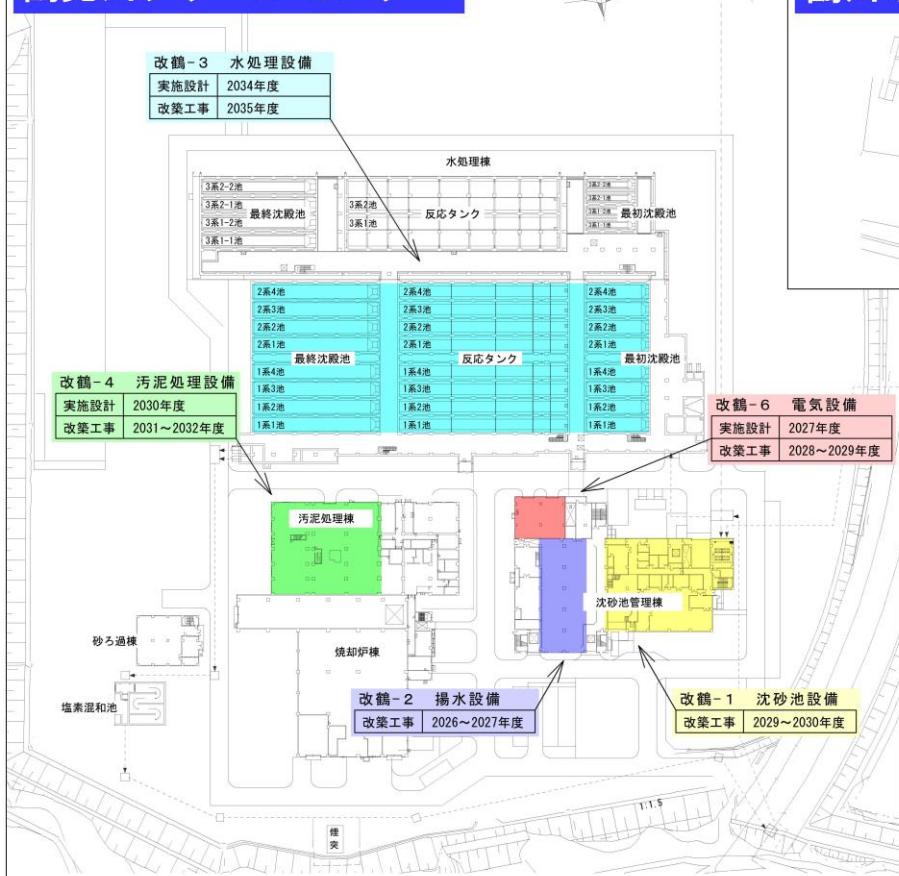


図 6-35 成瀬クリーンセンター・鶴見川クリーンセンター・鶴川ポンプ場の改築更新事業費

成瀬クリーンセンター



鶴見川クリーンセンター



鶴川ポンプ場



凡 例

- 沈砂池設備
- 揚水設備
- 水処理設備
- 汚泥処理設備
- 汚泥焼却設備
- 電気設備

図6-36 下水処理場・鶴川ポンプ場の主な設備改築改新工事実施箇所